

# 地域連携戦略室主催事業

平成30年度 タウンミーティング (第15回)

# 地域連携戦略室主催事業

平成30年度 徳島大学地域交流シンポジウム (第15回)

# 2018

地域連携事業成果報告書

## こまつしまリビングラボ(KLL)「社会共創キャンプ2018」

### 開催主旨

- 本学が提案した企画「こまつしまリビングラボ(KLL)」が、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)科学技術コミュニケーション推進事業 未来共創イノベーション活動支援に採択され、平成30年4月から実施している。
- 今回の社会共創キャンプは、平成30年4月から続けてきた取組を共有し、「日本の地方の社会イノベーション」を起こすための方法論を学び、アクションを起こそうというもの。

開催日：平成30年11月12日(月)～  
平成30年11月15日(木)

場所：小松島市役所、小松島市総合福祉センター、徳島大学フューチャーセンター『A.BA』

主催：徳島大学地域連携戦略室、徳島大学地域創生センター

共催：小松島市、JA東とくしま

### 内容

タウンミーティングは、本学が徳島県内市町村の有する課題を取り上げ、その解決に向けた地域と大学の相互対話による取組について協議するもので、地域貢献事業の一環として毎年県内各地で開催しており、今回で15回目となった。

今回のタウンミーティングは、平成30年4月から実施している、JST科学技術コミュニケーション推進事業 未来共創イノベーション活動支援に採択された企画「こまつしまリビングラボ」の社会共創キャンプとして開催された。

オープニングのゲストトークでは、「学ぶ」をキーワードに米国オレゴン州のポートランドから招聘した、ポートランドで公共交通(TriMet)のデザインに携わるロバート・ヘイスティング氏から「Design is How」と題し、ポートランドを題材に「より良い場所」の創造に必要なデザインについてお話があった。その後、多摩大学大学院教授で一般社団法人Future Center Alliance Japan代表理事の紺野 登氏より、イノベーションキャンプの現状と重要性についてお話があり、引き続き、オランダからお招きしたEducore創始者/代表でフューチャーセンターアライアンス(FCA)の共同設立者のハンク・クーネ氏から「イノベーションキャンプの方法論」と題して、日本の地方での社会イノベーションの引き金を引くための方法を学んだ。

パネルディスカッションでは、チャレンジオーナーから、これまでKLLで活動を行ってきた下記のプロジェクトについて報告があり「学び・憩い・集い・繋がる」場所となった。

- 「農業×空きスペース活用」に着目し、移住支援、就農支援を目的とする、喜田 智彦氏・吉井 亜矢氏
- クルーズ船をターゲットに港町小松島として再活性化をはかる、酒井 大輔氏
- アクロバットスケートショーを実施して、小松島をアピールする、佐藤 貴志氏
- 県内外の学生と一緒に小松島市の商業を活性化させる、山下 陽浩氏

- 「徳島大学阿波電鉄プロジェクト」と連携し、小松島に徳島発の電車の走行を試みる、岡久 正氏、三ツ本 善則氏、徳島大学阿波電鉄プロジェクトのみなさん
- 老若男女が自分が持つスキルを活かせる場づくり「コワーキングスペース」の経営を考える、鈴江 朱未氏、岡山 海綾氏

2日目には「対話が生み出す未来、リビングラボの見える化」と題して、小松島市長の濱田 保徳氏との対話の後、市長、地域創生センター長の吉田 敦也教授による、こまつしまリビングラボ看板掲式が執り行われた。

参加者数は、初日の12日は62名、13日は37名、14日は34名、最終日の15日は36名と、平日にも関わらず、延べ169名の参加があった。

参加者は4つのテーマに分かれ、自分の地域や社会、または事業の問題点を洗い出し、これまで行ってきた活動を別の角度からもう一度見直し、解決策を見つけ、未来デザインとアクションに巻き込まれる4日間となった。

「こまつしまリビングラボ」についての詳細は地域創生センターの取組ページをご参照ください。(P33)



社会共創キャンプの様子



看板掲式

## 「世界農業遺産認定一周年記念シンポジウム ～にし阿波の未来を考える～」

### 開催主旨

- 平成30年3月に徳島県にし阿波地域及び「にし阿波の傾斜地農耕システム」は、世界農業遺産に認定された。認定から1年間の地域の取組を紹介するとともに、農耕システムの将来について考える。

開催日：平成31年3月9日(土)

場所：ザ・ディスティノガーデン  
(美馬市脇町大字脇町1334)

主催：徳島剣山世界農業遺産推進協議会

共催：徳島大学、日本文化人類学会

### 内容

- (1) 主催者挨拶
- (2) 世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」シンボルマークお披露目
- (3) 『にし阿波 食と農の名人』認定式
- (4) 基調講演
  - 日本文化人類学会 会長 / 関西大学 特別任用教授 清水 展氏
  - 一般社団法人ロハス・ビジネス・アライアンス 共同代表 大和田 順子氏
- (5) 地域の取組発表
- (6) 講評、トークセッション

### 概要

地域交流シンポジウムは、本学が、地域社会の課題や要請に応えるための地域貢献事業の一つとして実施しているもので、今年度の開催が第15回目となった。

第15回目の今年度は、徳島県西部の山間地で行われている、平成30年3月に世界農業遺産に認定された、「にし阿波の傾斜地農耕システム」の認定一周年記念シンポジウムを共催者として開催した。

シンポジウム開催に先立ち、「にし阿波の傾斜地農耕システム」ロゴマークのお披露目、「にし阿波・食と農の名人」認定式が行われた。

シンポジウムでは、清水日本文化人類学会会長、大和田(一社)ロハス・ビジネス・アライアンス共同代表、それぞれから、海外、日本の他地域の世界農業遺産に関わる取組についての基調講演が行われた。

その後、小学生、高校生、農業団体等9人の方から、世界農業遺産に関わる地域の取組の発表が行われ、清水会長、大和田共同代表から、コメントがあった。小学生の発表については、自身の小学生時代と比較してその内容について賛辞があり、高校生のドローンを使った動画については、

YouTubeを使っての世界への情報発信を勧められるなど、地域の方々それぞれの取組について、高く評価された。

今回のシンポジウムは、「にし阿波の傾斜地農耕システム」について、今後どのように世界農業遺産に認定されたことを踏まえて活動するかを考える機会となりました。



地域の取組発表でコーディネーターを務める、本学社会産業理工学部の内藤准教授(写真左)



チラシ